



岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

令和 3 年 4 月 20 日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ 団体名 ムササウナイカイ 牟佐町内会

所在地

連絡先

代表者役職・氏名

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ☒ ア 地域課題解決 ☐ イ 地域課題掘り起し ☐ ウ 地域計画づくり ☐ エ 地域課題解決型の地域組織づくり ☐ オ その他
事業名	「産地牟佐」にこだわった地域活性化
事業実施区域 (小学校区)	牟佐町内会 (牧石学区)
①事業実施内容	あいにくのコロナ禍により、ほぼすべての予定事業を中止せざるを得ないこととなりました。そのような中、「産地牟佐塾」だけは休みなながらも、できる範囲で開催し、駆除された有害獣の皮革を活用した作品作りを続けました。唯一のチャンスは、地元にある日本遺産「『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま〜古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語〜」の構成文化財の一つである「牟佐大塚古墳」を活用した「牟佐大塚古墳と歴史の道ウォークver. 2」が12月に開催し、その参加者に向けて手づくり作品を販売しました。 また、本年度には事業として考えていなかった手づくりみそ教室を開催し、約30名が1月1か月間を使い順番にみその仕込みを完了しました。これは新年度の事業として予定しているところです。
②解決を目指した課題	昨今、我が地域は、農家が積極的に黄ニラやパクチーを全国的に売り出し、大きな注目を浴びている。一方では、山と川に囲まれた豊かな自然があり、種々の自然資源が存在するが、今日では、ごく一部の人がそれらに関わるばかりで、一般の住民や子供達がそれらに直接触れる機会はほとんどない。その存在も、ましてやそれらが活用できる資源であることも知られていないのではないかと。日常にある、あるいは身近にあることは知っていても、触れることがないために、その価値を知らない、わからない。これは地域にとっては大変に残念なことと言わざるを得ない。

③ 目的・目標の達成状況	まずは根本的な課題であった有害獣捕獲駆除は、イノシシ約20頭という少ない結果でした。農作物への被害は、例年に比べて防御できているとは言えない状況でした。そのような中でも猟友会駆除班にお世話になり、7枚の皮が使える状況であり提供いただきました。 目標とした「大切な自然の恵みが身近に存在するということを知り、ワークショップ的に活用し、より地域に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成などにつないでいく。併せて、それらの資源を加工・販売し、町内に収益として還元できる可能性を探る。」でしたが、コロナ禍により、ほぼ予定した行事を中止せざるを得ないこととなり、誠に残念でした。そのような中でも、8月に「産地牟佐」ニホンミツバチの蜂蜜をゲットしていただきました。しかし、皆さんに味わっていただくチャンスはありませんでした。 食を中心とした事業の開催は叶いませんでしたが、獣皮を活用した「産地牟佐塾」だけは、できる範囲で開催し、作品作りを続けました。11月に牧山クライナガルテンの収穫祭が復活するとの情報に、そこでの販売も了解をいただき予定しましたが、やはり直前に中止となりました。12月に地元で開催した「牟佐大塚古墳と歴史の道ウォークver.2」の参加者に、「産地牟佐」のイノシシ皮革で作った鉛筆キャップを記念品として提供するとともに作品販売は実施できました。これには大森市長にも紹介できました。 また、本年度には事業として考えていなかった手づくりみそ教室の開催について、長い間地元でみそづくりを進めてきたJA女性部の先輩方からありがたい申し出をいただきました。「今、伝えておかなければ、みそづくりを伝えることができなくなる。機材や指導スタッフは提供するから」と。当地へお嫁に来てから学んだみそづくりです。何としても伝承しなければとのお気持ちからでした。急きょ町内回覧にて募集し、集まっていた約30名が1月1か月間を使い順番にみその仕込みを完了しました。これは新年度の区づくり推進事業として新たに予定しているところです。 厳しい環境下ではありましたが、「産地牟佐」への関心は強く、世代を超えて取り組む手ごたえは得られたものと感じています。
④ 企画等の工夫と情報公開	お声がけをいただき、協働のまちづくり賞に応募した結果、大賞を受賞させていただきました。当年度の事業が、全く実施できない中、今までの取組みを紹介するしかありませんでしたが、区づくり推進事業があったればこそ事業を始めることができたことなども含めて紹介させていただきました。 また、「おかやまSDGsアワード」へも牟佐町内会としての取組みで応募させていただきました。これは、SDGsの視点から積極的に地域コミュニティとしての存在感を県下に広く知ってもらうためでした。区づくり推進事業はその中心にあることは申し上げるまでもありません。 情報発信では、電子町内会やフェイスブックで情報交換、情報発信を、また、既存の媒体である町内会新聞をはじめ、様々な機会や回覧等を通して、町内の方には情報発信を続けました。

町内の農家、猟師とまちづくり協議会等との連携により、

- ・町内での農産物被害対策としての有害獣の駆除活動の紹介・学習

- ・町内で駆除されたイノシシ等のジビエ利用や皮革活用（ワークショップ）等を通して自然資源の大切を学ぶ。

これについては、過去の取組みの参加者アンケートからも明確で、ワークショップに対する住民の関心度、満足度はとても高い。引き続き、参加の機会拡大に挑戦してみたい。イノシシにとどまらず、鹿の被害から駆除も始まっている。ジビエ（シシ肉入りカレー等）も好評であったことから、そのPRのためにも、いわゆる子ども食堂的なものをイメージして、もう少し広く提供できないか検討してみたい。

- ・令和元年に立ち上げた「産地牟佐塾」において、町内で駆除された獣皮を活用した加工品づくりに取り組み、「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦する。

「産地牟佐塾」で、加工の専門家に指導を受けながら、対価を得ることができるような「産地牟佐」ブランドの製品づくりにチャレンジをスタートさせたが、さらに完成度の高い製品にも挑戦し、「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦してみたい。しかし、去年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、地元の岡山刑務所矯正展、黄ニラ、岡山パクチャーふれあい祭り、牧山クラインガルテンでの収穫祭などが中止となってしまう、製品の販売のチャンスを失ってしまった。新年度も見通しは立たないが、予定だけは準備し、知恵を出していきたい。

初の試みとして、前年度予定していたがまったく進んでいないものとしてイノシシの脂から作る石鹸が人にやさしいということから、ネット販売を手掛けるジビエソーブさんと、イノシシ皮革製品販売についてアドバイスを受けてみたい。

- ・町内での蜂蜜づくりの挑戦・紹介・学習

- ・地元の旭川で獲れた鮎、川ガ二等の紹介・学習・試食

- ・町内にある「太戸の滝」の紹介

- ・町内の自然や暮らしなど地域をテーマにした写真展の開催

- ・みそづくり文化の伝承

古くから地域で取り組まれてきたみそづくり文化・技術の伝承に取り組む。JA女性部有志が、みそづくり支援チームを立ち上げてくださったことから実現できるもの。町内の次世代へつないでいきたい。

※実施する感染防止対策の内容・方法などについて

- ・事前の健康管理等周知徹底

- ・入室前検温

- ・アルコール消毒

- ・マスク着用

- ・ディスタンス確保

- ・室内の換気

- ・時間短縮に努める

⑥事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善

自然の恵みは、存在はしていますが、①シシ肉②イノシシと鹿の皮革③川ガニ④はちみつなど、いずれも区づくり推進事業で企画して初めて住民の側が入手できたものであり、日常的に当たり前に入手できるものではありません。コロナ禍ではありますが、新年度も、同様に計画し、子ども達を含む地域住民と共有したいと考えています。

当年度は、コロナ禍という思うに任せられない厳しい環境でしたが、協働のまちづくり賞応募を通じて、ご評価をいただいたことで、さらに地域住民は大きな力をいただいたことは間違いありません。これが喜び、楽しみとなり世代を超えた取り組みに弾みがつくものと思っています。

計画にはない年度途中でしたが、みそづくりについて、実にありがたい申し出をいただきました。すぐに具体化し事業ができました。これは1回で終わるものではなく、持続することで「伝承」の目的もかなうものですから、新年度には区づくり推進事業に位置付けたいと思います。ただ、「産地牟佐」の視点で見ると、大豆の植え付けから始めたいと考えています。しかし、これまた、イノシシに荒らされない農地を探すところから始めなければなりません。地域住民皆さんの協力がなければ形にはなりません。あきらめないで挑戦したいと考えています。

○事業決定時での審査会意見（区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容）

- ・多岐にわたる活動を着実に実施されていることを高く評価します。
- ・事業目的である地域に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成と加工・販売による収益還元を、バランスを取りながら進めていってください。
- ・その他、審査会で受けた意見やコメント集（既送付）も参考にして事業を推進してください。

○上記の助言及び意見を受けての事業への取り組み等(右記のⅠ～Ⅴの該当部分へ○を付け、その取り組み内容、右記の結果となった理由等について記入してください。) 年度当初、審査会からいただいたご意見では、販売の機会として、無印良品岡山ロッツ店をご紹介いただきましたが、ようやく新年度4月には、イコットニコットでのフリーマーケットへの参画を実施します。さらに、この取り組みを拡大できるよう改善に取り組みます。 同ご意見では、事業化や収益に対するお尋ねがありましたが、町内会としては、アイデアを基に少しずつ少しずつ新たな取り組みを模索している状況ですし、取り扱う分量にも限界があります。事業化ができて収益が上がってということが具体化できるとしても随分先になると思われます。夢のようですが、仮にそうなったとしたら、当然町内会の事業収益となります。一つの地域コミュニティとして、町内会費をコツコツと集めるしか財源を持たない中で、防犯灯の設置・交換をはじめ将来的に負担が拡大するであろう要因はたくさんあります。当年度には、町内会として防災倉庫設置のための用地まで購入し、一部借入金が発生しました。自主防災組織や地域包括ケアシステムなど、高齢化や支えあいの地域づくりに対応するための地域コミュニティに対する潜在的な期待が高まっています。そこに収益を自ら生むための取組みができるとすれば、これほどありがたいことはないと考えています。ただ、町内会としては、事業にリスクを抱えることはできませんから、当面は岡山市が進める区づくり推進事業の範囲内かと考えています。したがって、身の丈に合ったものとなります。有害獣駆除は、被害がなくなることが本来の目的であり、イノシシを駆除しなくてよくなれば、この皮革活用も不要となります。それでよいのだらうと思います。その考え方が、事業のバランスを取ることにつながるのだらうと考えています。しかし、駆除ができている間は、資源を無駄にしないことと併せて、関係者に少しでも喜んでいただけるものに高めていくべきだと考えます。一昨年度は、公民館が利用できましたから、大人のレザークラフト教室を実施し、アンケートも行いました。とても好評でした。もし大人のレザークラフト教室実施が叶えば、当然アンケートを実施します。成果を判断する指標については、特段ありませんが、小さな地域コミュニティですから、成果は空気ですぐにわかります。事業に限られた当年度で申し上げると「産地牟佐塾」に参画する10名(60歳代～80歳代)の方々に、広がりがあるのかどうか、笑顔があるのかどうか、モチベーションがあるのかどうか、常に目の前で感じるができます。今のところ、実に楽しいし、喜んで参加し、作品に向き合っておられるとしか言いようがありません。これらが失われた時、成果も失われていると言えるのでしょうか。	助言等の内容について、改善ができましたか。 Ⅰ できた Ⅱ おおむねできた Ⅲ 一部できなかった Ⅳ まったくできなかった Ⅴ 改善意見がなかった
--	---

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	310,500	53,000	
実施団体負担金	230,500	27,920	
参加者負担金	30,000	0	
協賛金	0	0	
寄付、他収入	50,000	25,100	「産地牟佐」皮革製品販売
計	621,000	106,020	

◆ 支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	80,000	5,680	レザークラフト道具代
②食糧費	21,000	0	
③印刷製本費	20,000	0	
④燃料費	0	0	
⑤光熱水費	0	0	
⑥通信運搬費	15,000	4,140	獣皮送料
⑦広告料	0	0	
⑧手数料	0	1,320	振込手数料
⑨使用料・賃借料	25,000	5,000	「産地牟佐塾」会場、イノシシ捕獲柵、ニホンミツバチ巣箱借用
⑩原材料費	100,000	220	レザークラフト材料
⑪委託料	200,000	60,900	なめし加工代8枚 皮はぎ代7枚
⑫工事請負費	0	0	
⑬報償費	100,000	15,000	「産地牟佐塾」作成・販売指導料
⑭保険料	60,000	13,760	有害獣捕獲補助 1 名傷害保険
⑮旅費	0	0	
⑯その他	0	0	
計	621,000	106,020	